

# 第3章

## 計画の目標

# 1 計画目標一覧

みどりの将来像を実現するため、目標を設定します。

木の  
イラスト

## 目標1 みどりに覆われた杉並

数値目標 : 緑被率 21.99%→25%

木の  
イラスト

## 目標2 魅力的な公園がすぐ近くにある

数値目標 : 公園充足率 74.84%→80%

木の  
イラスト

## 目標3 いろいろな生き物に出会える

数値目標 : 確認できる鳥類 57種→75種

木の  
イラスト

## 目標4 みどりでいっぱいの景色

数値目標 : 緑視率 20.09%→25%

木の  
イラスト

## 目標5 みどりが生活の中にある

数値目標 : 植物を育てている区民の割合 84%→90%

数値目標 : みどりを守り増やすために  
何か取り組んでいる区民の割合 45%→50%

木の  
イラスト

## 目標6 区民満足度

みどりの豊かさに満足する区民の割合 : 90%

みどりや水(河川等)とのふれあいに満足する区民の割合 : 80%

まちなみに美しさや落ち着きがあると思う区民の割合 : 90%

公園や広場に満足する区民の割合 : 90%

日常や災害時の安全性に満足する区民の割合 : 80%

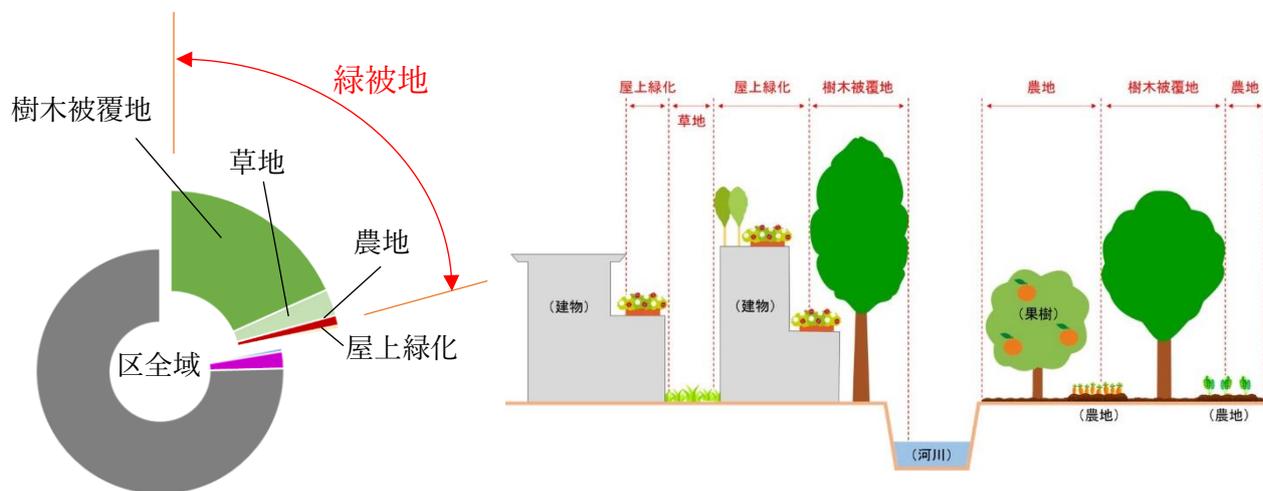
## 2 目標1 みどりに覆われた杉並

みどりの多さを端的に表す指標の一つに平面的に見たみどりの量があります。空から見て杉並区全域がみどりで覆われた姿はみどり豊かな杉並区を実感することができます。



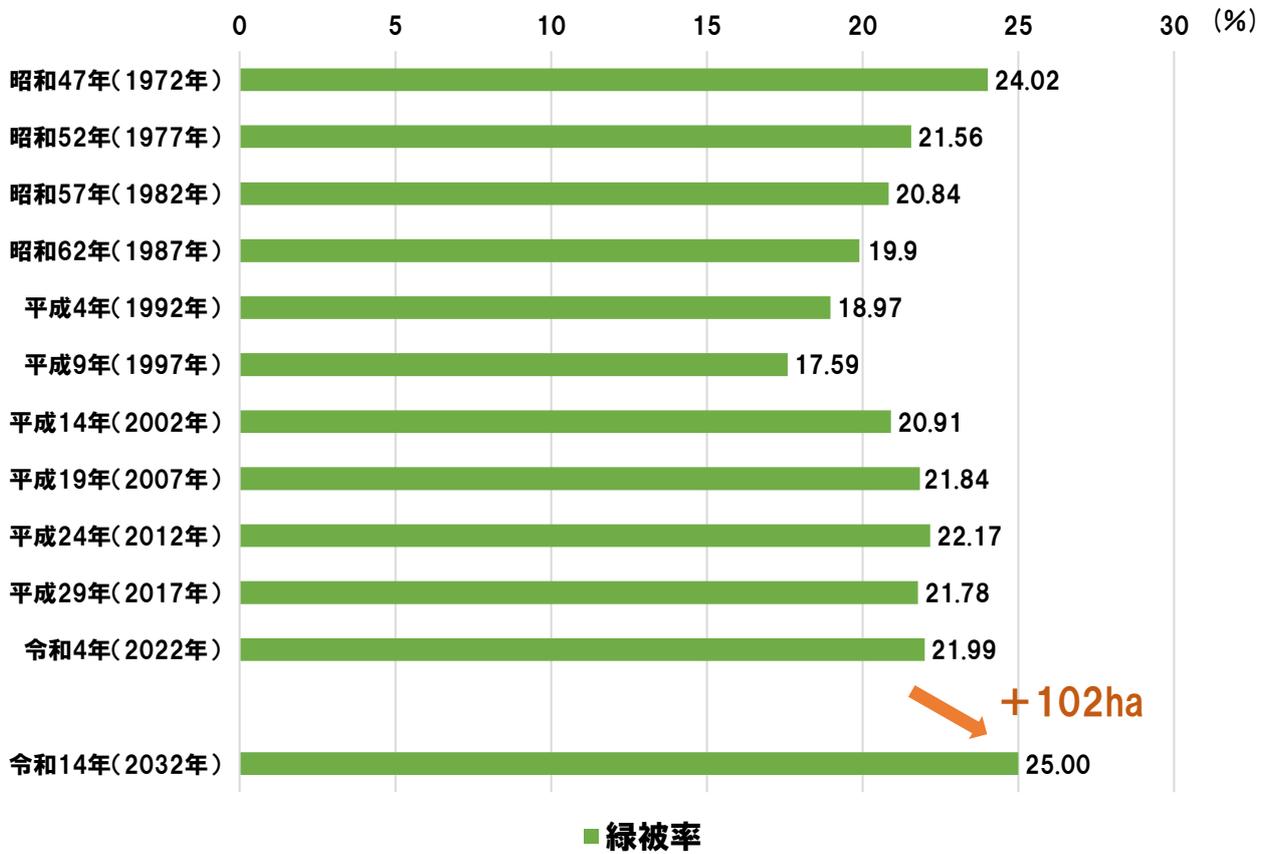
**数値目標 : 緑被率 21.99%→25%**

みどりに覆われた杉並を数値で確認するため、緑被率を使用します。緑被率とは、緑被地が区内全域に占める緑被地の面積で計算されます。



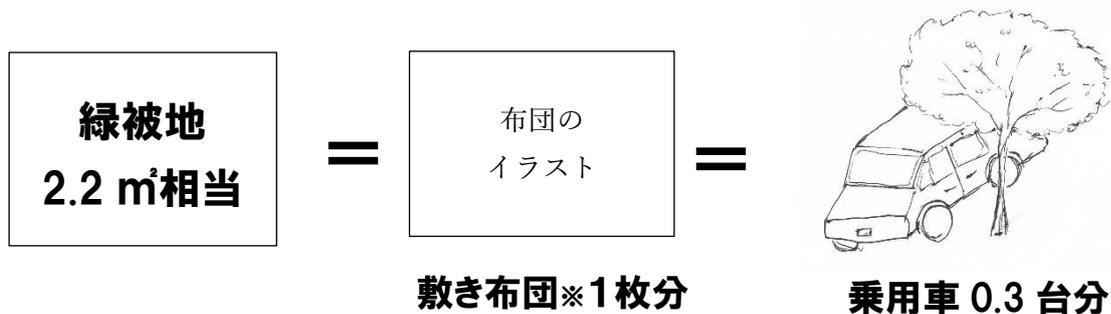
図\_緑被地の区分イメージ、緑被地の構成比（再掲）

調査を開始した昭和 47(1972) 年当時における同水準の緑被率を目指し、目標数値は 25% としました。



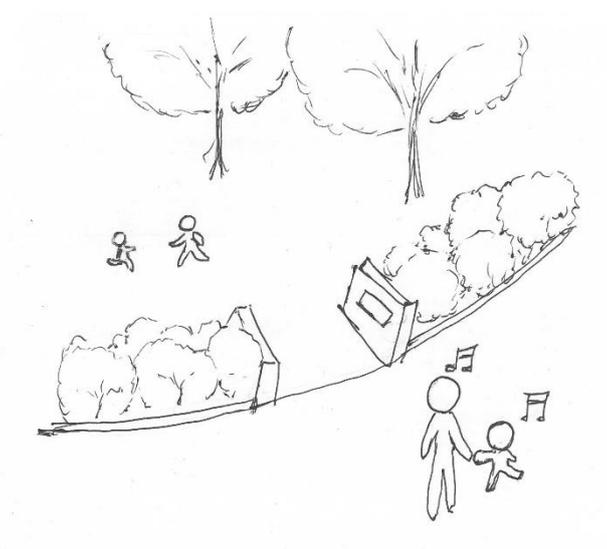
図\_緑被率の推移

緑被率 25%を達成するには、緑被地を約 102ha 増やす必要があります。未整備の都市計画公園・緑地約 76ha のほか、その他公共施設分による緑被地を差し引いた約 26ha の緑被地を区内の建物約 12 万棟 (※) で割り返すと、1 棟あたり約 2.2 m<sup>2</sup>が必要となる計算となります。



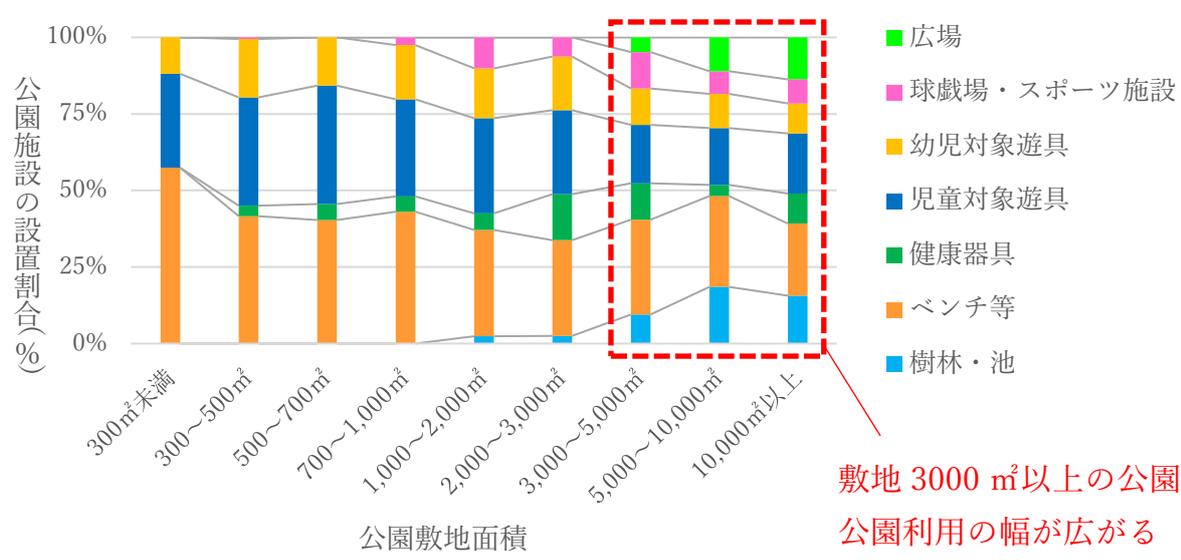
### 3 目標2 魅力的な公園がすぐ近くにある

区民がみどりをもっとも身近に感じられる場として、公園が挙げられます。魅力的で好きになれる公園が歩いて行けるような近くにあると生活も豊かになります。



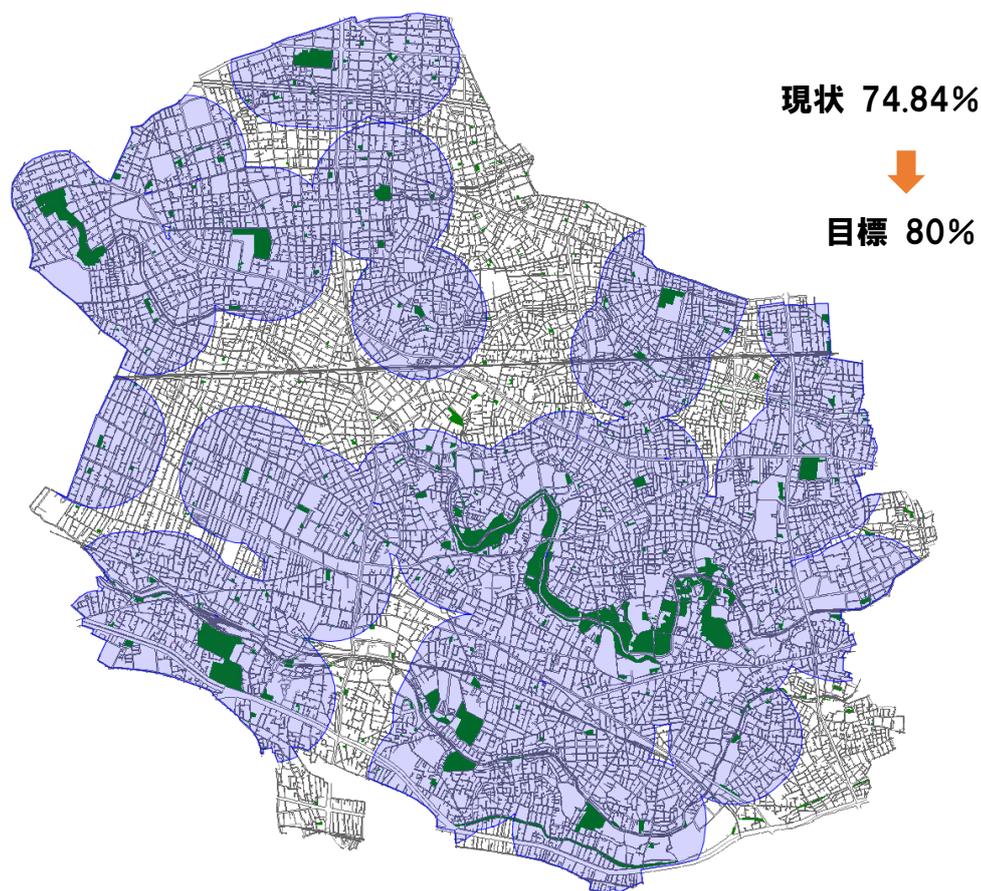
### 数値目標 : 公園充足率 74.84%→80%

魅力的で好きになれる公園は人それぞれ異なりますが、様々な公園利用のニーズに応えられる公園の方が魅力的と感じてもらえる傾向が高くなります。面積規模別に公園を見ると敷地が 3,000 m<sup>2</sup>を超えると公園利用の幅が広がることがわかっています。



敷地 3000 m<sup>2</sup>以上の公園では公園利用の幅が広がる

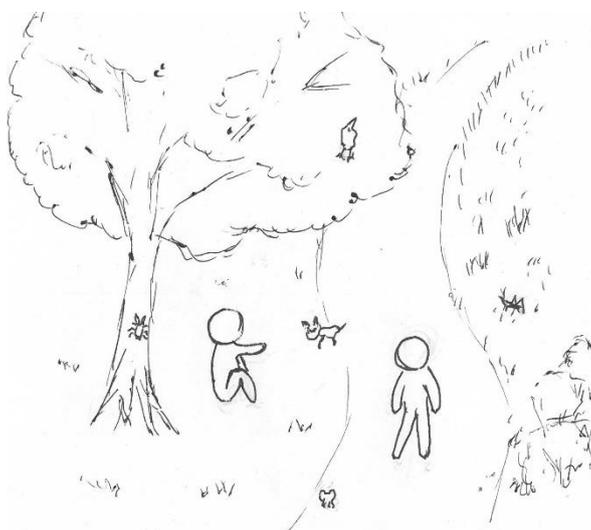
「多世代が利用できる公園づくり基本方針」の考えも取り入れて、敷地 2,500 m<sup>2</sup>以上の公園が歩いて行けるような距離（徒歩 8 分程度、500m）にある範囲の杉並区全域に占める割合を公園充足率として位置づけます。「魅力的な公園にすぐ行ける」を数値で確認するため、公園充足率を使用し、現状の 74.84%から 80%に引き上げることを数値目標とします。



● 敷地 2,500 m<sup>2</sup>以上の公園から半径 500m内

## 4 目標3 いろいろな生き物に出会える

チョウがひらひらと舞う草花や、小鳥のさえずりが聞こえる林は歩いていても気持ちが良いものです。いろいろな生き物に出会えるまちは出掛けたい魅力的なまちと言えます。



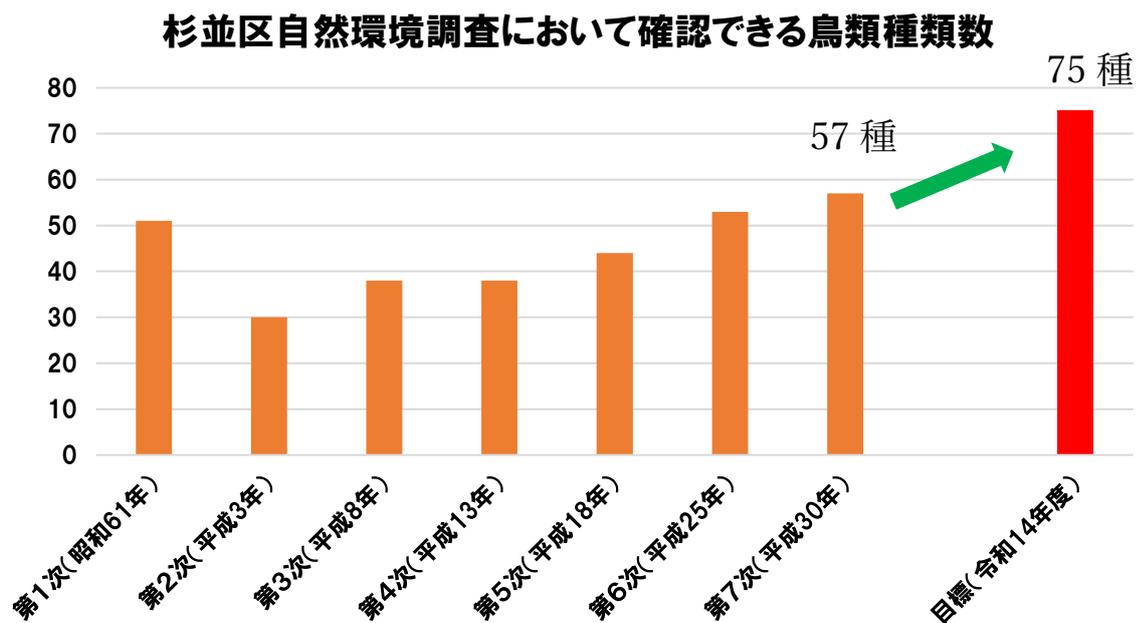
### 数値目標：確認できる鳥類 57 種→75 種

区では杉並区自然環境調査によって様々な動植物の生息種数を調査していますが、昆虫類とほ乳類では種類数が大きく異なるほか、調査方法も異なります。「いろいろな生き物に出会える」を数値目標で表すにあたって、生き物全体を対象としたものは設定が困難なため、ここでは鳥類に焦点を当てました。

鳥類は生態系ピラミッドでは比較的上位に位置し、鳥類の種数が豊富であることが下位の生き物の種数も豊富であることにつながると考え、「いろいろな生き物に出会える」を確認するため杉並区自然環境調査で確認できる鳥類数を数値目標としました。

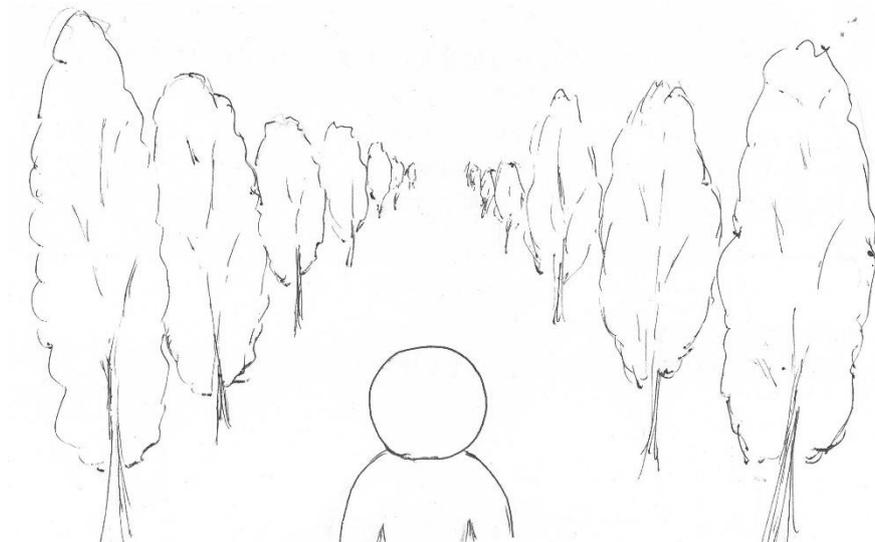
生態系ピラミッドの図

最近の杉並区自然環境調査では、新しい鳥類が確認され種類数は増えていますが、過去には見られたが確認できなくなった種もあります。昭和 61（1986）年の第一次調査から平成 30 年の第 7 次調査までの間に確認されている鳥類は 75 種であることから、今までに確認できた鳥類まで確認できる鳥類を増やすことを数値目標とします。



## 5 目標4 みどりでいっぱいの景色

みどりがいっぱいに広がる景色は潤いと落ち着きをもたらします。歩く人の視界にみどりが多くを占めるまちは良好な景観の美しいまちと言えます。



### 数値目標 : 緑視率 20.09%→25%

緑視率は人の視野に近い範囲で撮影した写真を用いて、その中に占める植物の割合を表したものです。人が見ている範囲にみどりがどの程度占めているかを直接的に確認できることから、緑視率を「みどりでいっぱいの景色」の数値目標とします。

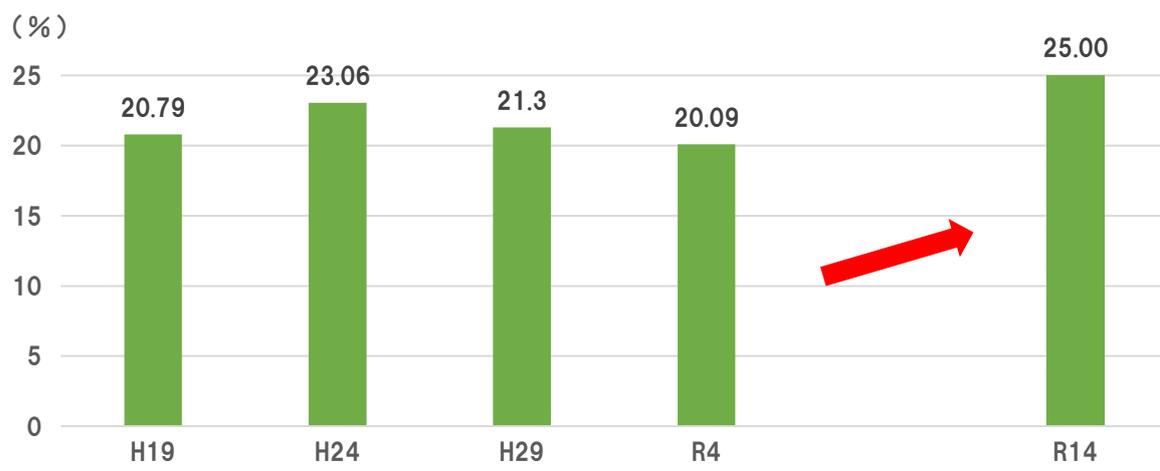
国土交通省の社会実験によれば、25%以上の緑視率があると、緑が多いと感じる人が多くなる傾向が見られることから数値目標も緑視率 25%とします。



現状の平均緑視率 20.09%



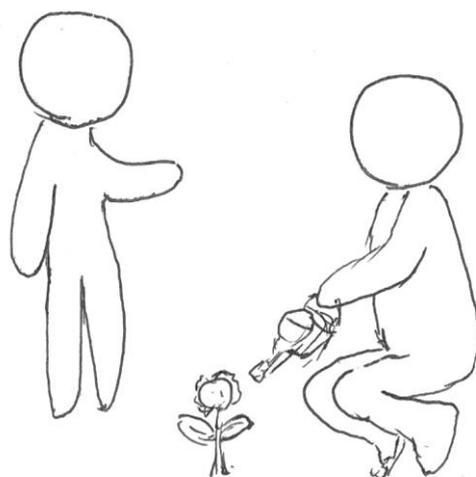
目標 25%の緑視率



■ 緑視率

## 6 目標5 みどりが生活の中にある

植物を育てるなど、みどりが生活の中にあると潤いを感じることができます。みどりとウェルビーイングにも深い関係があることも近年研究成果で明らかになりつつあります。より健康で豊かな生活を送るためにもみどりが必要と言えます。



### 数値目標：植物を育てている区民の割合 84%→90%

植物を育てていることは、「みどりが生活の中にあること」を端的に表すことから、区民モニターアンケート調査において「植物を育てている」と回答する区民の割合を数値目標とします。令和4年度調査の約84%の割合を90%に引き上げます。

### 数値目標：みどりを守り増やすために何か取り組んでいる区民の割合 45%→50%

くわえて、区民モニターアンケート調査において「みどりを守り増やすために何か取り組んでいる」と回答する区民の割合を数値目標とします。令和4（2022）年度調査の約45%の割合を50%に引き上げます。

## 7 目標6 区民満足度

みどりや関連した区の施策に区民がどのくらい満足しているかを直接的に測る指標に区民満足度があります。

### 数値目標：

**みどりの豊かさに満足する区民の割合：87.3%→90%**

**みどりや水(河川等)とのふれあいに満足する区民の割合：77.5%→80%**

**まちなみに美しさや落ち着きがあると思う区民の割合：79.6%→90%**

**公園や広場に満足する区民の割合：81.4%→90%**

**日常や災害時の安全性に満足する区民の割合：77.7%→80%**

みどりに対する満足度だけでなく、まちなみの美しさや災害時の安全性などの区民満足度もみどりに深く関わることから、より多面的に区民満足度を数値目標として設定しています。

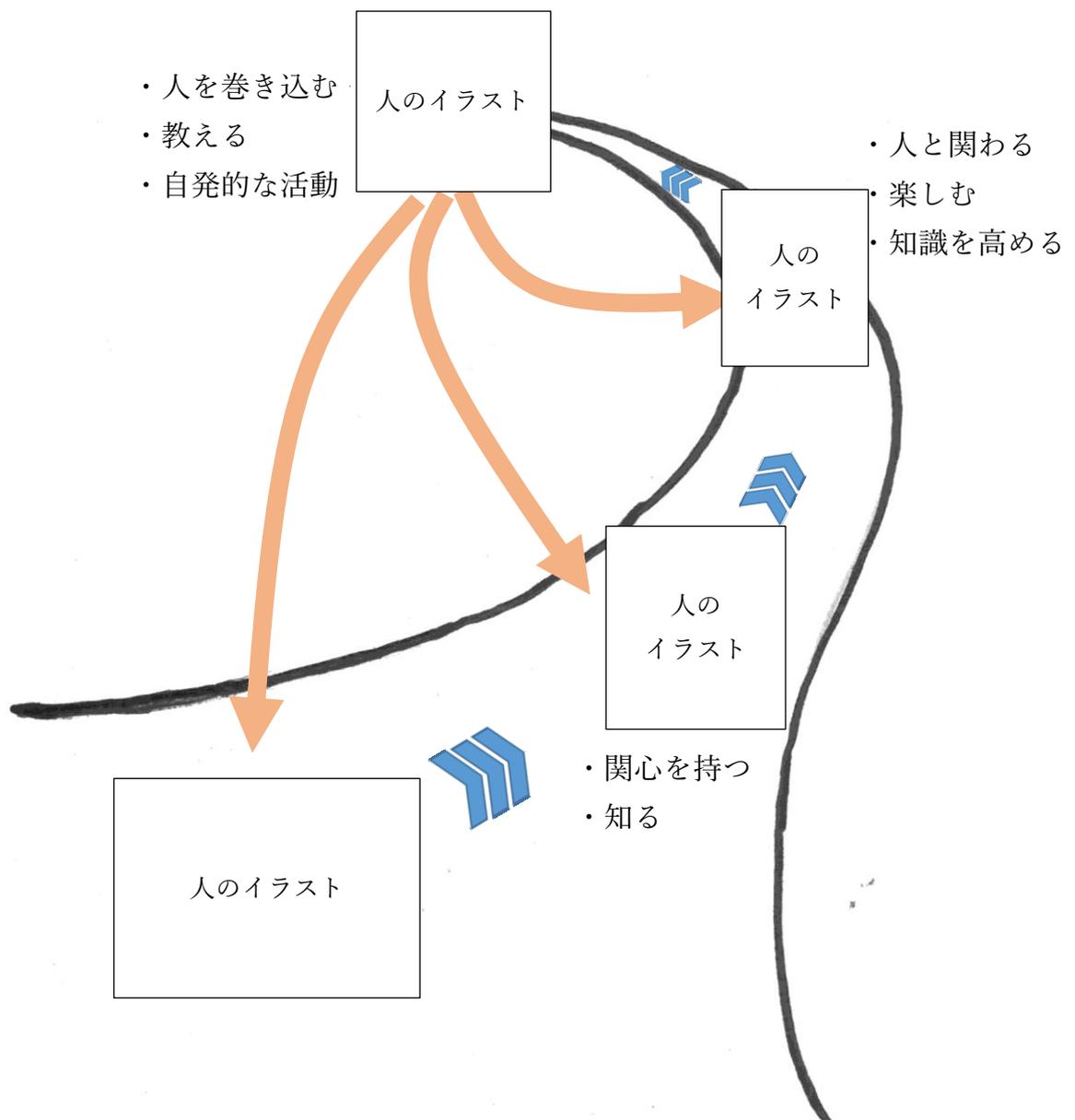
# 第4章

## 取組

# 1 区民が変える Change-up Project

みどりに関わる取組はすべて区民が主役です。「区民が変えるみどりでつながるまち 杉並」を実現できるかどうかは、取組を通じて区民がいかに主体的に活躍できるかにかかっています。

一方で、人それぞれ取組への関わり方は異なることから、みんなで楽しみながらできることから始めていくという考えが大切です。行政はこういった区民が主役となった取組を後押ししていきます。



## 2 基本方針と取組一覧

### 基本方針1 みどりがあるあたり前を 変えよう

みどりについての意識を高める

#### 1-1 みどりを知る、学ぶ、教える

例えば

みどりのボランティア講座

緑化副読本

みどりのポータルサイト

(仮称)みどりの講師バンク

#### 1-2 ふれあいながらみどりを考える

例えば

みどりのイベント

落ち葉感謝祭

炭焼き体験会

みどりの相談所

#### 1-3 みどりとの共生を考える

例えば

屋敷林所有者からのお話し会

樹木の倒木等リスクの見える化

共通財産として区民が支える杉並の原風景

#### 1-4 地域の理解で屋敷林を支える

目玉

例えば

保護樹木等の支援

法制度を活用した屋敷林保全

みどりの支援隊による屋敷林保全

#### 1-5 農とふれあいながら農地を支える

例えば

生産緑地制度を活用した農地保全

農とふれあう機会の創出

援農ボランティア

## 基本方針2 みどりでつながるまちに 変えよう

### 2-1 みどりを育てつなげるまちづくり

例えば

建築するときの緑化指導

助成制度を活用した緑化

みどりのベルトづくり

### 2-2 公園を核に区民がつなげるまちづくり

目玉

例えば

核となる公園の整備

区民ニーズに応える公園づくり

地域が考える公園利用ルールづくり

民間のノウハウの活用

### 2-3 生き物とつながるまちづくり

例えば

自然共生サイトの認定

在来種の植栽推奨

みどりのベルトづくり（再掲）

## 基本方針3 みどりのある未来にいま 変えよう

### 3-1 みどりと共に住み続けられる未来をつくる

目玉

例えば

ゼロカーボンシティの実現

みどりのリサイクル

建築するときの緑化指導（再掲）

助成制度を活用した緑化（再掲）

### 3-2 みどりを活かして安心安全な未来をつくる

例えば

雨水が浸透するまちづくり

災害時にも貢献する農地

### 3-3 風格あるみどりの景観がまちの未来をつくる

例えば

樹冠被覆率・緑視率の向上による良好な景観

景観を演出する自然樹形の樹木

### 3-4 区民の想いが未来をつくる

例えば

想いが形になるみどりの基金

### 3 取組（基本方針1）

#### 1-1 みどりを知る、学ぶ、教える

みどりを「自分ごと」とするには、みどりについて関心を持ち、知り、学ぶことが大切です。そして教えることによってまわりに広げていくことで「自分ごと」とする人を増やしていくことができます。みどりを知る、学ぶ、教える取組を、教育現場との連携やイベントを通じて進めていきます。

#### つながる目標

みどりが生活の中にある

区民満足度

#### みどりのボランティア講座

人のイラスト

みどりに興味があり、みどりに関するボランティアをしたいけど、「何をしたらいいかわからない」という方のためのボランティア入門講座です。

座学だけでなく、区内のみどり散策や剪定、花壇の植付けなどの体験実習も行います。

座学の写真

## 緑化副読本

人のイラスト

小学5年生を対象とした、みどりについて理解を深めることができる副読本です。区内小学校に配布し授業などで活用することで子どもの頃からみどりに親しめる機会をつくっています。

緑化副読本のカバー写真

## みどりのポータルサイト

新規

人のイラスト

身近なみどりに関する話題やイベントなどの情報を掲載した「みどりとひと」を紙ベースで新聞発行するほか、各種みどり情報も掲載したポータルサイトとしてホームページに掲載していきます。「みどりとひと」の編集をボランティアが担当することで、読み手の興味を引くような話題を提供し、身近なみどりの情報に楽しみながら触れることができます。



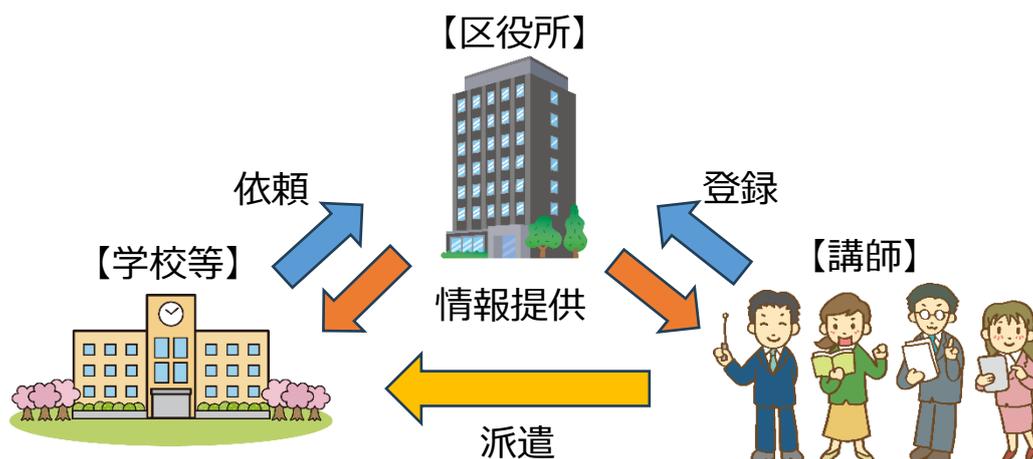
みどりの新聞取材風景

## (仮称)みどりの講師バンク

新規

人の  
イラスト

地域のみどりについて深く学ぶための授業をしたいが講師が見つからないという学校のニーズと、みどりに詳しいボランティアをつなぐため、新たに(仮称)みどりの講師バンクを創設します。授業内容に応じて最適な講師を区が紹介します。



区は、みどりの講座を開催し、ボランティアをしてみたい、もっと活動の場を広げたいと考えている区民のため学びの機会を確保していきます。緑化副読本は学校に配布するだけに留まらず、今後は緑化副読本を活用した授業の充実などを学校と連携して行っていきます。そのほか(仮称)講師バンクの創設によって、区民と協働でみどりについての教育の充実を図っていきます。

## 1-2 ふれあいながらみどりを考える

見て、触って、聞いて、五感でみどりに触れ合うことで、自然とみどりについて関心を持つことができます。体験に重点を置いたイベントを実施することで、みどりについて無関心な区民を引き込み、みどりのファンを増やすことを進めます。

### つながる目標

みどりが生活の中にある

区民満足度

### みどりのイベント

人のイラスト

毎年、新緑の季節に区立柏の宮公園で開催しているイベントです。ツリークライミングや草木染めなどを通じて、楽しみながらみどりに親しみ役割や価値を学ぶことができます。



ツリークライミングの写真

## 落ち葉感謝祭

人のイラスト

毎年11月下旬から12月上旬に開催し、中杉通りや区内の管理事務所のある公園等で落ち葉掃きをするほか、井草森公園では落ち葉プールや工作などの催しも行っています。

落ち葉掃きの写真



## 炭焼き体験会

新規

人のイラスト

公園樹木の間伐材などから炭づくりを体験できるイベントです。樹木の維持管理には剪定や間引きが必要となりますが、発生材を炭として燃料や防臭剤として活用することで、みどりのリサイクルを体験しながら学ぶことができます。

炭焼き体験会の写真

## みどりの相談所

区立塚山公園において運営しているみどりの相談所では、花・植木などの相談に専門の相談員がお答えします。



区は、みどりのイベントと落ち葉感謝祭を、区民が身近なみどりに触れられる2大イベントとして位置づけ、ボランティアとの協働のもと、より魅力的なイベントを目指します。炭焼き体験会はボランティアの自主的な取組を尊重し、必要な支援を行っていきます。「みどりとひと」は紙ベースによる新聞発行に加えて、より区民に情報が行き届くようにポータルサイトの創設を検討していきます。

### 1-3 みどりとの共生を考える

みどりは私たちに様々な恩恵をもたらしてくれる一方、みどりが私たちの人命や財産を奪うこともあります。台風による折れ枝や倒木、集中豪雨による洪水など、私たちがみどりと一緒に暮らしていく以上、みどりを適切に管理していくという視点も必要不可欠です。リスクの見える化などを進め、みどりと共生を考えていきます。

#### つながる目標

みどりに覆われた杉並

みどりが生活の中にある

#### 屋敷林所有者からのお話し会

新規

人の  
イラスト

屋敷林公開イベントの中で屋敷林所有者の方から地域の方にお話しできる場を設けま  
す。都市の中で屋敷林を維持していくことの苦労や、それでも守っていきたいという想  
いを当事者から聞くことによって、多様な考えのもとみどりと共生について考えるき  
っかけとなります。

屋敷林所有者からのお話し写真

## 樹木の倒木等リスクの見える化

新規

近年、公園樹木や街路樹などの倒木や枝折れによって人命や財産が失われる事故がたびたび起きています。健康状態などから樹木の倒木や枝折れ等の可能性と、樹木位置や樹木の高さから想定被害をおおよそ把握できることから、リスクを見える化します。とくにリスクの大きい樹木は優先して、樹木医による定期的な診断を受け、診断結果による樹勢回復のほか、回復が難しい場合は適切な処置を図っていきます。

倒木して何かをつぶしている写真

樹木医による公園樹木診断の様子写真

区は、屋敷林所有者のお話しを含めた屋敷林公開イベントを開催していきます。

樹木の倒木等のリスク見える化には、樹木台帳を GIS 上で整備することで DX の視点からも取組を進めていきます。公園等樹木をモデル的に実施し、街路樹や河川樹木にも活用を広げていきます。

## 1-4 地域の理解で屋敷林を支える

屋敷林は、昔は家屋や農地を守る防風林や燃料となる木材を切り出す場所として我々の暮らしに身近であり、生活にかかせないものでした。しかし、技術の進歩とともに資源エネルギーを外部に依存することで、こうした身近な資源はいつしか活用されなくなり放置され、相続等を契機に失われてきています。一方、屋敷林のようなまとまったみどりは、住宅地においてヒートアイランド現象の緩和や火災の延焼防止など、公益的な価値があります。このような機能を地域が理解し、屋敷林を残していく仕組みを充実させます。

### つながる目標

みどりに覆われた杉並

いろいろな生き物に出会える

## 保護樹木等の支援

目玉

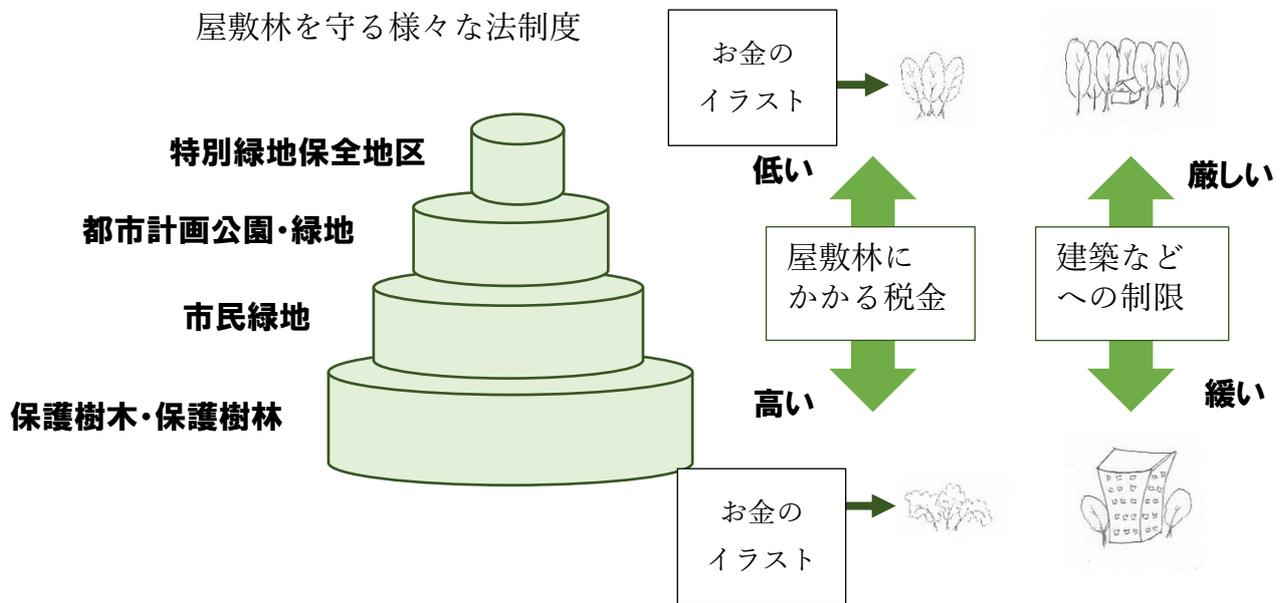
人の  
イラスト

区では昭和 48（1973）年のみどりの条例創設当時から保護樹木、保護樹林、保護生けがき、貴重木を指定し、みどりの保全に努めています。貴重木以外の保護樹木等は剪定等の維持管理の有無に関わらず一律で助成金によって支援しています。しかし樹木のある土地にかかる税負担や剪定等維持管理費に比べて助成金が少ない現状にあることから助成制度を抜本的に見直す必要があります。持続可能な保護樹木等の助成制度を確立することで、区内に残る貴重なみどりをこれからも守り続けることができます。

現行の保護樹木補助制度の模式図



保護樹木等のうち規模の大きな樹林を個人が所有している屋敷林は、固定資産税や都市計画税の負担が大きく、とくに相続税を支払うため屋敷林を残せない場合があります。所有者や地域の意見を聞きながら都市計画公園、特別緑地保全地区、市民緑地などの各種制度を活用することで、貴重な屋敷林を後世に残していくことができます。



## みどりの支援隊による屋敷林保全

新規

人の  
イラスト

屋敷林を残していく苦労には費用面の負担だけでなく、日常管理の負担も挙げられます。ボランティア組織「みどりの支援隊」が落ち葉掃きなどで支援することで屋敷林保全に貢献できます。そのほか、「みどりの支援隊」と協働で開催する屋敷林公開イベントでは、屋敷林が地域にとって貴重なものであるということを普及啓発するのにも貢献しています。

屋敷林公開イベントの様子写真

屋敷林公開イベントの様子写真

区は、保護樹木等の補助制度については所有者の意向を十分に把握しながら抜本的な制度改正を目指します。一律の助成金から剪定等の維持管理費に要した費用の一定割合補助など対象を絞ることで補助額を引き上げるなどの支援拡充を幅広く検討していきます。あわせて屋敷林の税負担軽減と区の土地買取りに有効な都市計画公園や特別緑地保全地区など現状凍結型の緑地保全を所有者の同意を得ながら目指す一方、現状凍結型の緑地保全が難しい場合は、比較的制約が小さい市民緑地による活用を目指します。そのほか、現在1団体に留まるみどりの支援隊を増やすことによって支援する屋敷林の拡大も目指していきます。

## 1-5 農とふれあいながら農地を支える

身近に農地があれば、直売所で購入した新鮮な野菜をおいしく食べたり、親子で野菜の収穫体験に参加したり、農の恵みを受け取ることができます。

その他にも、地震発生時に農地は一時避難場所としても機能し、様々な場面で我々の生活に役立っています。しかし、現在は相続等により宅地化が進み、農地は減少しています。

農とのふれあいを通して、都市農地が身近にあるということを区民が考える機会を増やし、農地を支えていく仕組みを充実していきます。

### つながる目標

みどりに覆われた杉並

区民満足度

### 生産緑地制度を活用した農地保全

人の  
イラスト

農地も屋敷林と同様、固定資産税や都市計画税の負担は大きく、相続税を支払うために農地を売却せざる得ない場合もあります。生産緑地制度は一定の長期間農業を継続することを条件に固定資産税や都市計画税が大幅に減免され、相続税も相続人等が農業を継続することで納税を猶予されます。税負担が大幅に小さくなる生産緑地制度を活用することで区内の農地を保全していくことができます。

生産緑地制度を説明する模式図

## 農とふれあう機会の創出

地元野菜を学校給食へ提供することで、教育の場を通じた農のふれあいを創出しています。あわせて、「農福連携農園すぎのこ農園」では、障害者・高齢者等が農作業を通じて、自信や生きがいを得ることができ、社会参画につなげる場となっています。そのほか、農業祭では野菜等即売会や農業に関連したイベントを実施することで区民が農とふれあう機会を創出しています。



## 援農ボランティア

人の  
イラスト

高齢化や後継者不足などの課題に直面する農業者を支援するために、援農ボランティアの養成を行うとともに、農業者個々のニーズに応じて、農業者とボランティアのマッチングを行うなど、営農支援に取り組んでいます。



区は、引き続き学校給食への地元野菜の提供や農業祭を実施するとともに、農業ボランティアを養成することで農業者を支援していきます。

## 2-1 みどりを育てつなげるまちづくり

住宅地が多くを占める杉並区では、区民一人一人がみどりを育てつなげる取り組みに参加することで、みどり豊かな住環境をつくりだすことができます。地域住民が協力し合うことで、緑化活動をとおしてコミュニケーションが図られ、まちの魅力の底上げを図ることができます。このような住環境を実現していくため、区では多くの区民が参加しやすい様々な方策を充実させます。

### つなげる目標

みどりでいっぱいの景色

いろいろな生き物に出会える

### 建築するときの緑化指導

人の  
イラスト

杉並区では、すべての建築行為に対して一定以上の緑化が義務付けられています。建築にあわせて緑化がされることで庭先のみどりがまちなかでつなげていくことができます。

緑化計画図面の例示

## 助成制度を活用した緑化

人の  
イラスト

杉並区では接道部緑化や壁面緑化、屋上緑化に助成制度を設けています。助成制度を活用することで少ない負担で住宅や店舗を緑化することができ、まち全体をみどり豊かにすることにもつながります。

緑化助成の実績例 写真

## みどりのベルトづくり

人の  
イラスト

みどりをベルト状につなげ、連続するみどりの空間をつくっていきます。水とみどりのネットワークを踏まえた帯状の骨格となるみどりのベルトのほか、生垣や庭先のみどりをつなげる身近なみどりのベルトによって、みどりでつながるまちを目指します。

緑化助成の実績例 写真

区は、緑化計画制度に基づき建築行為に伴って緑化を指導するとともに、助成制度を活用してより庭先の緑化を進めていきます。そのほか、今までみどりのベルトづくりは推進地区を指定し整備を進めてきましたが、今後は路線による重点的な緑化に注力しみどりのベルトづくりが実感できるような取組を進めていきます。

## 2-2 公園を核に区民がつながるまちづくり

一定のルールや特例もありますが、公園は誰でも、いつでも、自由に利用できる空間という特徴や役割があります。様々な人が集まる公園では、人々はゆるやかに、自然につながります。公園で形成されたコミュニティは、地域のまちづくりにも発展していくことから、公園の整備や施設の改修などを通じて、気持ちよく利用ができ、魅力的な公園を整備しています。

### つながる目標

魅力的な公園にすぐ行ける

区民満足度

### 核となる公園の整備

新規

中規模以上の公園では、多目的に利用できるオープンスペースやボール遊びできる空間など、公園利用の幅がより広がり区民の様々なニーズに対応することができます。区民の多様な公園利用ニーズに応えられる敷地 2,500 m<sup>2</sup>以上の公園を「核となる公園」と位置づけ、歩いて行きやすい距離に公園があることで区民生活に潤いをもたらします。

核となる公園の写真

## 区民ニーズに応える公園づくり

新規

人の  
イラスト

「多世代が利用できる公園づくり基本方針」に基づき、「核となる公園」を中心に一定の範囲内にある公園等それぞれが全体で公園機能を分担、補完し合うことで、各公園個別で機能を考えるよりも区民ニーズに応えることができます。多世代が利用できる公園づくりによる公園改修は地域におけるワークショップ等によることで区民ニーズを反映させた公園づくりとすることができます。

多世代が利用できる公園づくりの模式図

## 地域が考える公園利用ルールづくり

目玉

人のイラスト

区内全域共通の公園利用ルールは厳しくなりがちで、各公園の事情やニーズに合わないこともあります。公園利用者、公園隣接の住民などそれぞれ異なる立場から話し合いながらルールをつくることで、より利用しやすい公園とすることができます。

3月聴くくオフミーティングの写真

禁止看板のアップ

## 民間のノウハウの活用

行政の発想にとらわれないことでより利用者目線の取組が展開できるなど、民間のノウハウを活用した公園の管理・運営によってより魅力的な公園が提供されます。区立公園では指定者管理制度による公園管理・運営のほか、不定期でキッチンカーの出店などが行われています。



区は、区民の多様な公園利用ニーズに応えられる敷地面積 2,500 m<sup>2</sup>以上の「核となる公園」の整備を進めるとともに、敷地面積が 300 m<sup>2</sup>以上 2,500 m<sup>2</sup>未満の公園は「身近な公園」として位置づけ、より身近な公園として整備していきます。300 m<sup>2</sup>未満の公園は敷地規模上、公園機能が限られてくるため防災上のオープンスペースやいこいの緑地として整備を図っていきます。

核となる公園から一定範囲内にある公園等の改修は、「多世代が利用できる公園づくり基本方針」に基づき地域とのワークショップ等によって検討を区民対話のもと進めていきます。あわせて、子どもから高齢者、障害の有無に関わらず、安全・安心で快適に利用できるよう、また、施設の劣化や損傷の進行を未然に防止し、長持ちさせますような施設改修も進めていきます。

地域が考える公園利用ルールづくりは、地域からの要望に応じて、ワークショップ等を活用した区民対話のもと検討していきます。地域が考えた公園利用ルールは案内板やホームページ等で周知を図り、地域に根付くよう支援していきます。

## 2-3 生き物とつながるまちづくり

みどりはつながることで生き物の移動を助け、住処にもなります。まちなかで見かけることが少なくなった生き物も、庭先やベランダの草花に訪れることがあります。一人一人がみどりを増やしつなげることに参加することで身近に生きものと触れ合える場所を増やしていきます。

### つながる目標

いろいろな生き物に出会える

区民満足度

水辺のビオトープや、草木によるやぶは、様々な生き物に良好な住環境を提供します。こういった生き物の生息場所を保全・創出することが区内全域の生物多様性の向上につながります。あわせて、生物多様性確保における世界的な目標として提唱された 30by30 (※) を達成するため環境省が取り組んでいる「自然共生サイト」に区内の生き物生息場所が認定されることで、区民のほか、国内外に向けた生物多様性確保の普及啓発につながります。

カタクリの写真

自然観察会の写真

30by30 のイラスト

## 在来種の植栽推奨

人の  
イラスト

以前から杉並区で成育している固有の動物、植物の種類を「在来種」と言います。植物を在来種にすることで、その植物をエサや住処にしていた在来種の動物も集まりやすくなり、杉並区本来の生態系を保全しやすくなります。在来種以外の栽培品種や侵略的でない外来種も組み合わせつつも、住宅や店舗に在来種を植栽することで区内の生物多様性を向上することができます。

柑橘類の花の蜜を吸うチョウの写真

在来種、栽培品種、  
侵略的でない外来種、特定外来種の説明表

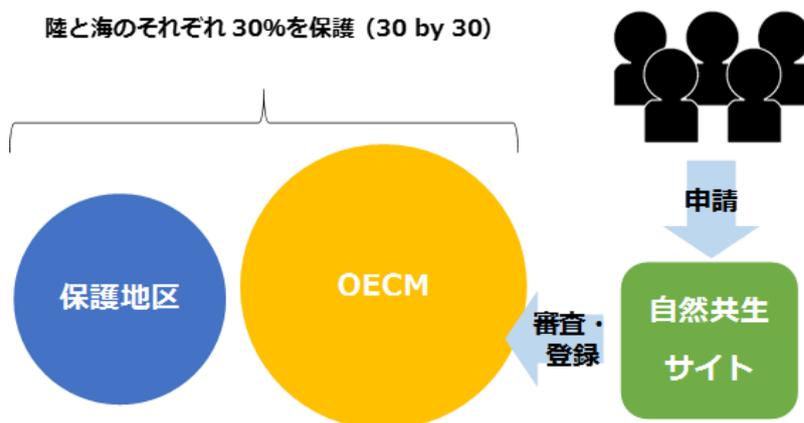
## みどりのベルトづくり（再掲）

人の  
イラスト

区は、カタクリ等貴重な植物等の生息場所として3箇所を整備し保全しています。今後は規模が大きく公園利用に影響の少ない公園の一角を対象に、高さを保った草地や中低木のやぶなどを残し、生き物の生息場所として確保していきます。あわせて自然観察会などボランティア活動が見込める箇所は活動団体と連携して、環境省による自然共生サイト認定を目指し、さらに OECM としての国際データベース登録を目指します。

在来種の植栽を推奨するため、何を植栽すれば良いか、植栽を避けるべき種類は何かをわかりやすくまとめた「在来種活用ハンドブック」を作成し、緑化計画などの指導に活用していきます。

そのほか、生き物の中でも鳥類に注目し、学術研究（※）から小型鳥類が 400m 移動できることを想定し、区内一定規模以上の樹林（※）を飛び石状に移動できるかを把握します。弱いネットワークを樹林保全や公園整備等で強化するなど、エコロジカルネットワークから見て、多様な生き物の生息や移動中継に効果的な箇所の緑地保全を見極めます。あわせて、住宅や店舗にみどりを増やすことで鳥以外にもチョウ・バッタなどのさまざまな生きものが生息できる場所、移動できる経路を増やします。



### 3-1 みどりと共に住み続けられる未来をつくる

近年、地球温暖化による様々な異常気象が我々の生活を脅かしている現実を実感できる場面が増えてきました。そうした中、みどりは木陰をつくるとともに、ヒートアイランド現象や地球温暖化の緩和にも寄与します。環境に配慮した行動とともに、樹木による二酸化炭素吸収によってゼロカーボンシティを実現することなどを進めていきます。

#### つながる目標

いろいろな生き物に出会える

区民満足度

#### ゼロカーボンシティの実現

人の  
イラスト

杉並区は、令和 32（2050）年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050 年ゼロカーボンシティ」実現のため、建物の断熱化や太陽光パネル設置補助など、様々な取組を進めています。樹木が二酸化炭素を吸収することから、みどりを増やしていくことも地球温暖化の緩和に貢献します。

樹木の CO<sub>2</sub> 固定化のサイクル模式図

建物断熱化の効果写真

## みどりのリサイクル

人の  
イラスト

樹木は剪定枝や落ち葉などが日常管理の中で発生しますが、それらはゴミとして扱われがちです。しかし堆肥化して植栽地に還すことでみどりのリサイクルによる資源循環が可能になります。



## 建築するときの緑化指導（再掲）

人の  
イラスト

## 助成制度を活用した緑化（再掲）

人の  
イラスト

区は、住宅や店舗など建物の高断熱化、太陽光パネル設置費に補助するのにあわせて、接道部緑化や屋上・壁面緑化の費用を補助することで、二酸化炭素を吸収する樹木を増やしていきます。

区立公園等で発生する剪定枝は再資源化処理施設に持ち込むことで堆肥化をしていきます。落ち葉についてはできるだけ現地で堆肥化するため植栽地に掃き入れることを原則とします。掃き入れる植栽地が少ない公園では落ち葉を溜められる、ます「(仮称)落ち葉ダム」を設置して公園利用に支障がないよう落ち葉の堆肥化ができるよう検討していきます。そのほか落ち葉感謝祭を通じてみどりのリサイクル活動の普及啓発を進めます。

### 3-2 みどりを活かして安心安全な未来をつくる

みどりは平時だけでなく、地震や水害などにおいても多くの機能を発揮します。農地の持つオープンスペースとしての機能や雨水が浸透するまちづくりを進めることなどで、みどりの多様な機能を活かしたグリーンインフラによる防災・減災を進めます。

つながる目標

区民満足度

#### 雨水が浸透するまちづくり

人の  
イラスト

都市化はまちをアスファルトやコンクリートで覆い、雨水が地中に浸透しない構造としています。樹林や農地は雨水浸透の点からも高い能力があるためできるだけ守っていくとともに、住宅・店舗においても屋根や駐車場に降った雨水を浸透柵等で浸透させることで雨水を地中にしみ込ませることができます。雨水が浸透するまちは、集中豪雨のときには河川への雨水流入を減らし洪水被害の軽減にもつながります。

イラスト

## 災害時にも貢献する農地

常に耕されている農地は雨水浸透能力がとくに高く、河川に流す水を少なくすることから洪水被害を軽減します。そのほか、農地は都市の中で貴重なオープンスペースであり、震災時の延焼防止にも役立ち、平時は農業用水として利用し、災害時には周辺地域の生活用水等に利用される防災兼用農業用井戸を設置している農地も数多くあります。災害時に貢献するといった視点からも農地を守ることで、安全安心なまちに近づけることができます。



区は、公園や緑地を増やし雨水浸透施設を設置していくほか、道路を透水性舗装にすることや、区立学校等の公共施設では雨水貯留槽等を設置していきます。民間施設への雨水浸透施設設置についても、補助制度を活用しながら拡充していきます。そのほか、新たな雨水浸透施設として注目されている雨庭（レインガーデン）を公共施設に設置するとともに、民間等への普及を目指していきます。

水害ハザードマップで示されている浸水予想区域や木造密集地域などでは、公園整備によって地域の防災機能が向上するといった視点からも整備を進めていきます。

区内農地に防災兼用農業用井戸の設置を進めるとともに、災害時には地域の避難場所としても活用できるよう防災協定を結んだ農地を増やしていきます。

### 3-3 風格あるみどりの景観がまちの未来をつくる

寺社をはじめとした歴史文化や商店街などのにぎわいある生活に加え、屋敷林や農地、河川沿いに広がる豊かなみどりが杉並独自の景観を形づくっています。まちの良好な景観に必要な不可欠な樹木の形を自然に保つほか、樹冠被覆率・緑視率を向上させることによって風格あるみどりの景観を目指します。

#### つながる目標

みどりでいっぱいの景色

区民満足度

#### 樹冠被覆率・緑視率の向上による良好な景観

人の  
イラスト

みどりの実態調査の中で把握している緑視率は、まちを歩く人の視点からどれだけみどりが見えるかを端的に表しています。緑視率を上げることによって、みどり豊かな景観づくりの指標とすることができます。そのほか、ニューヨーク市などでは目標とされている樹冠被覆率も同様にみどり豊かな景観を数値で表し、樹冠被覆率が高まることで熱中症予防にも役立つとされています。

緑視率の模式図

阿佐谷ケヤキ並木の写真

## 景観を演出する自然樹形の樹木

みどりの景観は、みどりが存在するだけでなく剪定等管理の仕方で見え方の印象が大きく異なります。樹木は健全に生育することで自然と形を成す自然樹形が種類ごとにあります。自然樹形に逆らった剪定は、樹木が無理に枝を出そうとすることで景観を悪くするとともに、樹木を弱らせることにもつながります。自然樹形を把握した剪定等維持管理が行われることでまちの景観が良くなります。

自然樹形のケヤキ写真

鉛筆に吹き枝のケヤキ写真

区は、みどりの景観を端的に表す緑視率調査をみどりの実態調査の中で進めるとともに、同様にみどりの景観に関係し、熱中症予防にも効果があるとされる樹冠被覆率についても、みどりの実態調査の中で把握している樹木緑被率と整合を図りながら調査項目として研究していきます。

公園等樹木を中心に自然樹形による剪定を進めることでまちの景観向上を図っていきます。強剪定により従来の樹形を失った樹木は地域の景観を悪化させるだけでなく、樹勢が衰えるため倒木の危険性が增大する問題もあります。樹木の維持管理では、公園樹木を中心に自然樹形を意識した剪定を進めます。

### 3-4 区民の想いが未来をつくる

私たちの行動の積み重ねが未来をつくり、何を残してきたかで未来は変わります。みどりの基金を通じて、想いを形にすることで豊かなみどりを次世代に受け渡すことを目指していきます。

#### つながる目標

みどりに覆われた杉並

魅力的な公園にすぐ行ける

#### 想いが形になるみどりの基金

人のイラスト

杉並区みどりの基金は、区民や企業等からの寄附金等を充て、区内のみどりの保全や緑化の推進に活用していく制度です。積み立てたみどりの基金は貴重な屋敷林を守ることや公園整備に活用され、次世代に向けてみどりのある未来を引き継いでいくことができます。

みどりの基金寄附から使用用途までのフロー模式図

市民緑地の整備写真

区は、令和5（2023）年末までにみどりの基金を約7千万円積み立てています。近年は保護樹木等（※）にかかる保険料金（※）の一部に充てるなどしてきましたが、寄附者から用途が見えづらいことが課題となっています。みどりの基金を市民緑地（※）の整備費用など、形に残る取組に充てることによって寄附の成果が見えやすくなります。具体的な成果例を挙げることで魅力を感じた寄附者の増加を図ります。